

ではない。

#### 12. ミナ・コンコルディア (Mina Concordia)

- ・プロジェクト所在地：サルタ州。サン・アントニオ・デ・ロス・コブレスの北東 8Km。
- ・事業者：Mansfield Minera S.A. (カナダ)
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・探鉱概要：コロニア時代には鉛及び銀が採掘されている。近年では、JICA-MMAJ による資源開発協力調査が行われている。その後、1995年、Argex Minera S.A.はこの地区の調査を行い、翌1996年に鉱区を申請している。1997年排他的鉱業権を取得した RTZ は地質調査、グリッドサンプリング、磁気探査及び 1119m の RC ボーリングを実施した。1998年5月 Mansfield 社は独立系コンサルタントに評価を依頼。1999年前半にはメキシコの Penoles がプロジェクト評価を行ったが、参加を見合わせている。現在はパートナーを物色中。

#### 13. パチャマミータ (Pachamamita)

- ・プロジェクト所在地：サルタ州、サルタの南南東 100Km、El Alisal の北北東 120Km に位置する。
- ・事業者：Paramount Venture and Finance Inc. (カナダ)。
- ・鉱区面積：18,200ha
- ・対象鉱種：銅、金、モリブデン。
- ・鉱床タイプ：ポーフィリー銅。
- ・探鉱概要：20Km×18Km の広域地質図副調査に並行して河床堆積物地化学探査が実施され、Zona El Tapado (2Km×2.5Km)、Zona Dique El Tapado (2Km×3.5Km)、Zona Campana Tapado (3Km×4Km) が Cu、Au、Mo の異常地として抽出されている。

#### 14. プロメテドーラ (Prometedora)

- ・プロジェクト所在地：サルタ州。
- ・事業者：International Pacific Rim S.A. (カナダ)。
- ・対象鉱種：銅、鉛、亜鉛、金。
- ・探鉱概要：地表の変質帯に対し、地化学探査、物理探査（流電電位法、IP、磁気）が実施された他、地形図調査（1：12,500）が行われている。2000年には55,000ドルの予算で2000mのDDボーリングが予定されている。

#### 15. タカ・タカ・スール (Taca Taca Sur)

- ・プロジェクト所在地：サルタ州。サルタの北西 260Km。
- ・事業者：Argex Minera S.A. (Mansfield Minerals Inc.)及び Tecks Corporation との J/V。

- ・ 鉱区及び鉱区面積
- ・ 対象鉱種：金。
- ・ 鉱床タイプ：ポーフィリー型金／銀鉱染鉱染鉱床。
- ・ 探鉱概要：地質図副調査、地化学探査、物理探査 (IP 及び磁気) 45Km、トレンチ 2585m、DD ボーリング 600m が 1997 年までに行われている。鉱量は地質ポテンシャルとして、100-200 万オンス (金品位 2-3g/t)。ヒープ・リーチングに適すると言われている。

#### 16. リオ・グランデ (Rio Grande)

- ・ プロジェクト所在地：サルタ州。
- ・ 事業者：Argex Minera S.A. (Mansfield Minerals Inc.) (カナダ)
- ・ 鉱区面積：14,000ha。
- ・ 対象鉱種：金、銅。
- ・ 鉱床タイプ：Fe-Au-Cu-U-レア・アースのオリンピック・ダム型の鉱床といわれている。
- ・ 探鉱概要：1999 年までに 10 平方 km の地質調査、地化学探査が実施され、有望地区として 700m×400m が抽出されている。地表サンプルの分析結果では最高で、銅 1.28%、金 1.25g/t を示している。2000 年の計画では、精密地質調査、グリッドサンプリング、トレンチ、物理探査及びその結果に基づくボーリングが予定されている。

#### 17. サンタ・ロサ (Santa Rosa)

- ・ プロジェクト所在地：サルタ州。
- ・ 事業者：Argex Minera S.A. (Mansfield Minerals Inc.) (カナダ)
- ・ 鉱区及び鉱区面積：鉱区主は Minera Argentina Gold 社。面積 8,035ha。
- ・ 対象鉱種：金、銀。
- ・ 探鉱概要：1999 年から探鉱費 50 万ドルを持って 3 年計画で地質調査、IP、磁気探査等を計画している。

#### 18. ソル・ブリジャンテ (Sol Brillante)

- ・ プロジェクト所在地：サルタ州。
- ・ 事業者：International Pacific Rim S.A. (カナダ)。
- ・ 対象鉱種：銅、鉛、亜鉛、金。
- ・ 探鉱概要：変質帯、地化学探査で抽出された下部の情報を得るため、地電流法、IP、磁気探査を実施。2000 年には 4 万 5 千ドルの探鉱費で 1:12,500 の地質図作成、2000m の DD ボーリングを計画している。

## 19. ビキンゴ (Vikingo)

- ・プロジェクト所在地：カタマルカ州、フィアンバラ (Fianbala)。
- ・事業者：Arminex (Apac Minerals Inc.の子会社) (ノルウェー)
- ・対象鉱種：鉛、亜鉛、銀及びバホ・デ・ラ・アルンブレラ型のポーフィリー銅。
- ・地質環境：フィアンバラ山系の地質はカンブリア、オールドビシアン及びシルリアン紀の変堆積岩類及びオールドビス紀の火山岩からなり、いくつかの時代の変成作用を受けると共に、オールドビス紀の超塩基性岩や玄武岩が貫入している。
- ・探鉱概要：地質調査及びサンプリングが始まったところ。

## 20. エル・アリサル (El Alisal)

- ・プロジェクト所在地：トゥクマン州、ルレス (Lules) 郡。州都トゥクマンの西 27Km、標高 2600m、アクセスは容易。
- ・事業者：Paramount Ventures and Finance Inc. (カナダ)。
- ・鉱区面積：1200ha。
- ・対象鉱種：銅、金。
- ・鉱床タイプ：ポーフィリー型銅・金鉱床。
- ・地質環境：El Alisal の複合火山岩は安山岩質斑岩、石英安山岩、マイオシンの貫入角礫岩 (これにはオールドビス紀の花崗岩の捕獲岩を含む) からなる。変質帯は中央部からカリ/珪化、セリサイト/粘土化、プロピライト化と外辺部が変わり、バホ・デ・ラ・アルンブレラやアグア・リカの変質帯と類似している。鉱化作用としては黄銅鉱、黄鉄鉱、閃亜鉛鉱、磁硫鉄鉱、磁鉄鉱の鉱物をなし、金はカリ/珪化変質帯及び角礫岩中に見られる。
- ・探鉱概要：1997 年には鉱区問題で係争があったが、97 年末、トゥクマン州鉱山局は Paramount 社に鉱区を与える決定をした。1998 年 Paramount 社は 25 万ドルの探査費で地質調査、地化学探査 (土壌及び河床堆積物) 及び物理探査を実施したが、現状の銅及び金の価格では、さらに調査を継続することには否定的な見解を示している。

## 21. カプリーチョ (Capricho)

- ・プロジェクト所在地：ラ・リオハ州。
- ・事業者：Sunshine Mining (アメリカ)
- ・対象鉱種：亜鉛、鉛、銅、銀 (塊状硫化鉱)。
- ・鉱床タイプ：塊状硫化鉱床。
- ・探鉱概要：1999 年サンシャイン社は鉱区を取得し、100m 間隔で露頭のサンプリングを行った結果、かなり品位の高い亜鉛、鉛、銅、銀の鉱化帯が連続して存在することが分かった。2000 年は引き続き鉱化帯の連続性を追求すると共に、DD ボーリングを計画している。露頭の分析品位は、銀 (7.8-155g/t)、亜鉛 (0.9-7.9%)、鉛 (0.1-

5.6%)、銅 (0.3-2.1%) であった。

## 22. エルベシア (Helvecia)

- ・プロジェクト所在地：ラ・リオハ州。グアンダコール (Guandacol) の西 30Km。
- ・事業者：Plata Minerals S.A.
- ・事業形態：鉱区主は Yamiri SEM。1995 年、Plata 社は 3 年間で 130 万ドルの探鉱費を支払うことにより 90%の権益を取得するオプション契約を締結し、探鉱作業は Plata 社とのコンサルタント契約で WGM 社により実施されている。
- ・対象鉱種：鉛、亜鉛、銀。
- ・地質環境：オルドビス紀の石灰岩を石炭紀の火山性堆積物及び礫岩、陸棲の赤色砂岩が不整合に覆う。貫入岩は第三紀と思われる安山岩のダイクである。初生の鉱化作用として、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱、菱鉄鉱、ピッチブレンド等が見られ、二次酸化鉱物としてスミソナイトが観察される。
- ・探鉱概要：1995 年地質調査、物理探査及び RC ボーリング 11 孔 1537m が行われた。今後の開発に向けての地形図作成、空中写真解析、物理探査、DD 及び RC ボーリング費用として 200 万ドルが見込まれている。

## 23. サラマンカ (Salamanca)

- ・プロジェクト所在地：ラ・リオハ州グアンダコール (Guandacol)。
- ・事業者：Minas Argentinas S.A. (IMA Resources Corp.-Viceroy Resources) (カナダ)。
- ・対象鉱種：金。
- ・探鉱概要：1995 年から地質調査及び地化学探査を開始し、96 年には傾斜ボーリング 7 孔 685m を実施しそのうち 3 孔で金 0.14-7.24g/t の鉱化帯を捕捉した。1997 年、精密地質及び地化学調査、物理探査 (IP 及び磁気それぞれ 13Km) 及び DD ボーリング 7 孔 1200m が行われている。異常の探鉱費は累計で約 50 万ドル。

## 24. バジェシート (Vallecito)

- ・プロジェクト所在地：ラ・リオハ州シエラ・ラス・ミナス (Sierra de las Minas) 及びサンルイス州ロス・ドス・ブオス (Los dos Buhos) 地区。
- ・事業者：Golden Peaks Resources、Primo Resources、Mitsubishi (カナダ-日本)。
- ・事業形態：三菱グループ (三菱マテリアル、三菱商事) は 1998 年オプション契約を締結 (3 年間の探鉱費 150 万ドルを支出することにより 30%の権益取得)、オペレーターは Golden Peaks 社。
- ・鉱区面積：南北 35Km、東西 15Km。
- ・対象鉱種：金、(銅)。
- ・地質環境：地質はプレ・カンブリア紀後期から古生代前期の堆積岩類と花崗岩類・ミ

グマタイトから構成される。

- ・探鉱概要：調査地域は Los Dos Buhos 鉱区、School 鉱区、Vallecito 鉱区の 3 地区に大別される。これまでの調査で有望視されるのは Vallecito 及び Los Dos Buhos である。何れの地域でも地質調査、地化学探査、トレンチボーリングが行われており、金、銀（及び銅）の高品位鉱化帯を捕捉している。

## 25. ディエンテ・ベルデ (Diente Verde)

- ・プロジェクト所在地：サン・ルイス州、ラ・カロリーナ (La Carolina)
- ・事業者：Gold Criff Resources Corp.
- ・鉱区及び鉱区面積：5150ha。
- ・対象鉱種：金、銅。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・地質環境：古生代の片麻岩類を第三紀の安山岩質斑岩が貫く。鉱化作用は裂隙を充填する石英脈に伴い高品位の銅（黄銅鉱、輝銅鉱）及び金の鉱化をもたらしている。
- ・探鉱概要：地質調査、地化学調査、物理探査及び RC ボーリング 10 孔 2311m の結果、ポテンシャル鉱量として、金 150-300 万オンス、銅 9-19 億ポンドを見込む。

## 26. アグア・ブランカ (Agua Blanca)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州
- ・事業者：Minera Andes Inc (アメリカ) - Newcrest Minera Argentina (オーストラリア)
- ・事業形態：J/V。
- ・鉱区面積：18,000ha。
- ・対象鉱種：銅、金。
- ・鉱床タイプ：ポーフィリー型銅・金鉱床。
- ・地質環境：第三紀の火成岩の貫入に伴う鉱化で、南方のチリ El Indio へ連続するものと予想されている。
- ・探鉱概要：1995 年 Minera Andes 社は 25Km のアクセス道路を建設すると共に、地質調査及び河床堆積物による地化学探査を実施し、Au-Cu-As-Hg のアノマリー地区を抽出した。1996 年、Newcrest 社により鉱化帯の中心である Quebrada Agua Blanca 地区及び Qubrada Mondaca 地区で RC ボーリング 2000m が実施されている。

## 27. カスポソ (Casposo)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州
- ・事業者：Battle Mountain Gold Ltd.
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・探鉱概要：鉱区内の Camila Mercedes 地区及び Cerro Norte 地区が興味ある地区として

抽出され、5000m のボーリングが実施されたという情報がある。品位は金 0.479－0.242g/t、銀 7.58g/t と高くはない。

#### 28. エル・レオンシート (El Leoncito)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州、バレアル (Barreal) の南西 35Km。
- ・事業者：Arminex (Apac Minerals Inc.の子会社) (ノルウェー)。
- ・対象鉱種：銅、モリブデン。
- ・鉱床タイプ：ポーフイリー型。
- ・地質環境：パーミアン－三疊紀の流紋岩、Choyoi 層の花崗岩をプロピライト変質を受けた角閃石、安山岩質斑岩が貫く。鉱化作用に関する変質鉱物はセリサイト、カオリン、珪化で、鉱染した黄銅鉱、輝安鉱、孔雀石、褐鉄鉱、鉄明礬石等が地表で観察される。
- ・探鉱概要：1969 年、ONU 計画の下で図副調査、物理探査 (IP)、約 100m のボーリングが行われている。モリブデンの品位は最高で 0.3%、藍銅鉱を若干伴う。

#### 29. グアルカマージョ (Gualcamayo)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州
- ・事業者：Minas Argentinas S.A. (Viceroy Resources の 100%子会社) (カナダ)。
- ・事業形態：Viceroy 社は 1997 年 Mincorp Exploration 社と 2002 年までに 500 万ドルの探鉱費を費やすことにより 60%の権益を取得するオプション契約を締結。
- ・鉱区面積：2630ha。
- ・対象鉱種：金、銀、銅。
- ・鉱床タイプ：スカルン型及び浅熱水性鉱染鉱床。
- ・探鉱概要：1998 年、空中磁気探査データの解析、地化学探査の結果に基づき、アクセス道路に建設を行い、Quebrada de Diablo 地区及び Quebrada El Rodado 地区で 14 孔 2605m の DD ボーリングを実施。1999 年には 19 孔 3400m の DD ボーリングに加え 6400m の RC ボーリングを行った。又、併せてアメリカ、カナダにおいて鉱物試験及び選鉱試験を実施。埋蔵鉱量は確定で 1210 万トン (金品位 1.15g/t、金量で 44 万 7 千オンス)、推定鉱量では 3720 万トン (金品位 1.13g/t、金量 135 万オンス) と発表されている。

#### 30. ハグエリート (Jagüelito)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州
- ・事業者：Minara Penoles de Argentina S.A. (メキシコ)。
- ・対象鉱種：金、銀、銅、鉛、亜鉛。
- ・探鉱概要：1999 年には地形図作成 (1:10,000、1:5,000、1:2,000) のための空中写真撮

影、アクセス道路の建設、岩石／土壌地化探 (Cu、Pb、Zn、Au、Ag、As の異常域抽出)、ボーリング選定河床を中心とした精密図幅 (1:1000)、DD ボーリング 6000m、RC ボーリング 3000m を実施。2000 年には地質図幅調査 (1:2000 及び 1:5000)、DD ボーリング 3000m、RC ボーリング 3000m を計画している。これまでの探鉱費は 98 年までに 560 万ドル、99 年 240 万ドル、2000 年は 250 万ドルが見込まれる。

### 31. ラ・オルチガ (La Ortiga)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州、チリの El Indio ベルトの東方、Hohestake 社のベラデロ (Veladero) プロジェクトの東 12Km。
- ・事業者：Barrick Exploration と TNR (Toscana Resources) (カナダ)。
- ・事業形態：Barrick 社と TNR 社とのオプション契約により探鉱作業は Orko Gold 社により進められている。
- ・鉱区面積：54 平方 km。
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：熱水性鉱染鉱床。
- ・探鉱概要：1995 年 5 月までの地質調査、物理探査により、角礫帯及び珪化帯の有望地区 4 平方 Km を抽出。地表サンプリングでは 1-11.8g/t の金の品位を得ている。この地区で RC ボーリング 6 孔 1366m を実施したが、平均品位は 100ppm で高くなかった。引続き 99 年から 2004 年までの間、300 万ドルの探鉱費で調査を継続する予定 (Orko 社はこれにより 60% の権益を取得するオプションを有する)。

### 32. ポトレリョス (Potrerillos)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州、バジェ・デル・クーラ (Valle del Cura)
- ・事業者：IMA Exploration Inc. (カナダ)。
- ・鉱区面積：37,000ha。
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・探鉱概要：鉱区は Barrick、Argentina Gold、Pnoles、TNR、Orko Gold のプロジェクトに囲まれている。概査の結果、金 0.233-116.8g/t の地表サンプルの分析結果を得、地化探及び比抵抗アノマーリー地区として Fabiana 地区を抽出。2000 年 4 月以降、RC ボーリング 2,500m を計画。

### 33. ケブラダ・デ・ラス・カサス・ブランカス (Quebrada de las Casas Blancas)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州カリングスタ (Calingasta) 郡。
- ・事業者：Opawica Minerales Argentina S.A. (カナダ)。
- ・鉱区及び鉱区面積
- ・対象鉱種：金。

- ・地質環境：石炭紀の堆積物をパーミアン、三畳紀、第三紀の火成岩類が貫入、火成岩類は強い熱水変質を受けている。
- ・探鉱概要：1996年広域的概査を実施、変質帯のサンプリングから有望と考え、アクセス道路の建設及び400-1000mのボーリングを計画。

#### 34. ビクーニャ (Vicuña)

- ・プロジェクト所在地：サンファン州、Pascua Lama 及び Veladero 鉱床から約 80Km。
- ・事業者：Tenke Mining 及び Phelps Dodge Corp. (アメリカ)
- ・対象鉱種：金。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・探鉱概要：2000年3月 Tenke 社の発表によると、地表調査及び物理探査で異常地を選定、2000年にはボーリングを計画すると伝えられている。地表サンプルの分析値は最高で金 2.6g/t。

#### 35. ラ・オルケタ (La Horqueta)

- ・プロジェクト所在地：メンドーサ州、セロ・ネバド (Cerro Nevado) 地区。サン・ラファエル (San Rafael) の西約 100Km。
- ・事業者：Minera Andes Inc. (アメリカ)。
- ・鉱区面積：4080ha。
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床 (?)。
- ・探鉱概要：1996年、10Kmのアクセス道路の建設と、河床堆積物の地化探、物理探査、トレンチ等を実施、北部、中部、南部の3箇所の有望地域を選定。北部地区では金 1.1-22g/t の地表サンプルを得、中部地区ではトレンチで 25m の範囲で平均 1.51g/t の値を得ている。同年11月、2200mのボーリングを開始した。ポテンシャル鉱量は 100万オンス以上と言われている。

#### 36. ラス・チョイカス-エル・ブレロ (Las Choicas - El Burrero)

- ・プロジェクト所在地：メンドーサ州
- ・事業者：Abra S.A. (Cominor ING-CIDEF/S.A.)
- ・鉱区：探鉱鉱区は次の5つのグループからなる。(1) Las Choicas、El Aguila、Atalaya、Coloso、(2) Mina El Burrero、Burusono、(3) Guanaco、Adriana、Anita、Sybil、Victoria、(4) Colotilde、Villagra、(5) Mina Fortuna。
- ・対象鉱種：銅、銀。
- ・鉱床タイプ：ポーフイリー銅
- ・探鉱概要：1995年から97年にかけて、72平方kmに亘る地質調査を行うとともに47Km



のアクセス道路の建設及び探鉱キャンプの設営を行っている。この間、ラス・チョイカス地区では1:2000の地質図幅を作成、0.5平方kmの範囲でCSAMTを実施し100m間隔で8つの断面を得ている。また、ブレロ地区ではIPを実施している。ボーリングはRC23孔、3,859mが行われ、環境影響調査及びプレF/Sも実施された。ラス・チョイカス地区の埋蔵鉱量は38万9千トン、Cu：4.27%、Ag：30g/tと発表されている。

### 37. ウスパジャータ (Uspallata)

- ・プロジェクト所在地：メンドーサ州、サンファン州との境。
- ・事業者：Puma Minerals Corporation
- ・事業形態：Argentina Mineral Development S.A. (AMD) (オーストラリア Climax Mining Ltd.の子会社) と Puma Minerals (カナダ BEMA Goldの子会社) の共同探鉱。
- ・鉱区及び鉱区面積：鉱業権は AMD (Argentina Mineral Development S.A.) が保有。
- ・対象鉱種：金-銅。
- ・鉱床タイプ：ポーフイリー二次富化鉱床。
- ・探鉱概要：有望地区 10 箇所 で 12,000m のボーリングが実施され、中心部のエル・サラド鉱体は地表約 1 平方 km の範囲で、鉱化は地下 150m まで連続する。二次富化帯の厚さは 9-13.5m、62m までの品位は Cu：1-1.02%、Au：0.73-0.53g/t と言われている。

### 38. ロス・メヌーコス (Los Menucos)

- ・プロジェクト所在地：リオネグロ州
- ・事業者：Arminex (APAC Minerals Inc.の子会社) (ノルウェー)。
- ・対象鉱種：金。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・探鉱概要：鉱区内の有望地区は、El Puesto、Caltrauna、Amapola、Aguadita 及び El Padre の 5 地区であり、2000 年からの探鉱計画は次の通りである。  
El Puesto：16 平方 km の地質・地化学調査、物理探査 (比抵抗、IP、磁気)、ボーリング (DD；2000m、RC；2000m)。  
Caltrauna：16 平方 km の地質・地化学調査、物理探査 (比抵抗、IP、磁気)、ボーリング (DD；500m、RC；3500m)。  
El Padre：地化探、RC ボーリング 1500m。

### 39. ラ・ホジャ・デル・ソル (La Joya del Sol)

- ・プロジェクト所在地：チュブット州エスケル (Esquel) から 5Km。
- ・事業者：Minera El Desquite (Brancote Holding：60%)
- ・鉱区面積：約 1000ha。

- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・探鉱概要：石英脈の伴う金鉱床で、16の鉱脈群からなる。1997年1200mのボーリングの結果、その時点では十分な探鉱は行われてなかったが、開発に値するプロジェクトと判断、1999年には10,000mのボーリングを計画、引続き2000年も回収試験を実施すると共に探査を続けている。主なボーリング結果を以下に示す。

CD 202 コア長 30.2m Au : 6.8g/t

CD 203 コア長 24.5m Au : 10.4g/t (内 5.1m で 20.2g/t)

CD 204 コア長 27.7m Au : 9.5g/t (内 3.5m で 29.0g/t)

CD 205 コア長 31.4m Au : 5.9g/t

CD 206 コア長 20.0m Au : 18.9g/t (内 4.5m で 57.7g/t)

GR 151 コア長 14.0m Au : 14.1g/t

現在のところ埋蔵量は金約 250 万オンス、銀 540 万オンスと見込まれ、サンタクルス州のセロ・バングアルディアに匹敵する鉱山になるものと期待されている。

#### 40. ウエボス・ベルデス (Huevos Verdes)

- ・プロジェクト所在地：サンタクルス州
- ・事業者：Minera Andes S.A.
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱脈・ストックワーク鉱床。
- ・探鉱概要：1998年12月トレンチ調査開始、28のトレンチ2、150mから580のサンプルを採取。結果が良かったものは9mで金9.16g/t、銀255g/tを得た。1999年3月からは物理探査(IP、磁気)34Km及びボーリング調査を精力的に実施。ボーリングの主な結果を以下に示す。

EP-38 コア長 7.4m Au : 2.19g/t, Ag : 170g/t

EP-39 コア長 6.3m Au : 9.74g/t, Ag : 630g/t

EP-40 コア長 4.1m Au : 3.85g/t, Ag : 249.8g/t

E-54 コア長 11.3m Au : 2.01g/t, Ag : 102.6g/t

EP-70 コア長 5.4m Au : 15.92g/t, Ag : 1634g/t (内 2.3m で Au : 30.73g/t, Ag : 3166g/t)

引続き探鉱は行われている。

#### 41. ラ・ホセフィーナ (La Josefina)

- ・プロジェクト所在地：サンタクルス州中央部、南緯47度45分-47度59分、西経69度15分-69度30分。
- ・事業者：Minamerica S.A. (パナマ)。
- ・鉱区面積：48,531ha。

- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・探鉱概要：1998年1680個のサンプリング（岩石、表土、土壌、トレンチ）調査。物理探査（IP：3700m、EM：5100m、磁気：10,800m）、トレンチ800mを実施。99年にはボーリング2000m程度を予定。

#### 42. ラ・マンチュリア (La Manchuria)

- ・プロジェクト所在地：サンタクルス州、サンタクルス州中央部の北部、西経約48度。
- ・事業者：Abacus Mineral Corp. (カナダ)。
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：鉱脈及びストックワーク。
- ・探鉱概要：1991-92年はLac Mineralが探査を行ったが放棄。96年からBarrickがトレンチを含む地質調査を実施。Abacusによる調査は1997年に始まる。97年地質、地化探、物理探査（IP；7.2Km、CSAMT；8.6Km）を実施。98年にはDDボーリング7孔2000mを行った。内2孔で鉱脈を掴み、1孔では58m間で金6.53g/t、銀22.3g/tを得ている。99年にはRCボーリング2000mが計画されている。

#### 43. マルチネータス (Martinetas)

- ・プロジェクト所在地：サンタクルス州
- ・事業者：Compañía Minera Polimet (Yamana Resources Inc.)
- ・対象鉱種：金、銀。
- ・鉱床タイプ：浅熱水性鉱床。
- ・探鉱概要：1999年6月までに、192孔、8679mのボーリングを行っている。最高品位を得たものは5m間で、金731.62g/t、銀1,780g/tと発表されている。

# 主要プロジェクト（稼行中）位置図



# 主要プロジェクト（開発待ち）位置図



## 新規プロジェクト

1. Pachon
2. Oro Hualilan
3. Andacollo
4. Pirquitas
5. Agua Rica
6. San Jorge
7. Veladero
8. Rio Colorado
9. Manantial Espejo
10. Pascua Lama
11. Taca Taca Bajo
12. Famatina Bacon Veta Martha

## 第5章 アルゼンティンにおける日本の協力事業

### 5-1. 開発調査（資源開発協力基礎調査）

#### 1. 北部地域（資源開発調査：1977-1980年）

- (1)カウンターパート：経済省鉱山庁、陸軍工廠
- (2)対象鉱種：金、銀、亜鉛
- (3)調査手法：地質調査（47.2km<sup>2</sup>）、物理探査（IP法；57.1Km）、ボーリング調査（11孔、2,479m）
- (4)調査結果：Mina Capillitasの機知鉱床周辺における新鉱床を発見するため、上記調査を行った。Capillitas鉱脈の西部延長と推定される新鉱脈を捕捉、Au0.68g/t、Ag56g/t、Cu0.44%、Pb1.10%、Zn11.0%、Mn11.83%であった。

#### 2. ファマアティナ地域（地域開発計画調査：1981年）

- (1)カウンターパート：経済省鉱山庁
- (2)対象鉱種：金、銀、銅
- (3)調査手法：既存データ及びインフラ調査に基づくプレF/S調査。
- (4)調査結果：ラリオハ州Famatina地区の鉱山開発の可能性を探るため、いくつかのケースについてインフラ、労働事情、開発費、収益性の解析を行い、鉱山開発の方向性を示した。

#### 3. パタゴニア地域（資源開発調査：1981-1983年）

- (1)カウンターパート：経済省鉱山庁
- (2)対象鉱種：鉱物資源全般
- (3)調査手法：衛星画像（ランドサット）及び空中写真解析（300,000km<sup>2</sup>）、地質調査（803km<sup>2</sup>）。
- (4)調査結果：広域的調査により、鉱物資源の有望地区を抽出することを目的とした。その結果、斑岩型銅鉱床が期待される地域としてLa Voluntad、Caquel、Condorcanqui、Cerro Coihue地区、また、鉱脈型鉱床が期待される地区として、Campana Mahuida鉱床の南東のCerro Huayelon地区が選定された。

#### 4. アルトデラブレングダ地域（資源開発調査：1986-1989年）

- (1)カウンターパート：経済省鉱山庁、YMAD（鉱山公社）
- (2)対象鉱種：金、銀
- (3)調査手法：地質・地化学探査（350km<sup>2</sup>）、物理探査（CSAMT法80km<sup>2</sup>）、ボーリング調査（29孔3887m）、坑道調査（1408m）。

(4)調査結果：本調査は鉱山公社 YMAD によって操業されるファラジョンネグロ鉱山の残存鉱量が枯渇しつつあった折、周辺地区で鉱量を確保し、今残の延命を図ることを目的とした。上記調査の結果、延長約 550m、脈幅 5-25m、垂直延長 300m のエスペランサ脈の全貌を把握し、既知鉱床と併せ、埋蔵鉱量約 110 万トン（金 6.36g/t、銀 126.17g/t）が計上され、開発対象として有望であることが判明し、以下に示すファラジョンネグロ地域の地域開発調査に移行した。

#### 5. ファラジョンネグロ地域（地域開発調査：1990-1991 年）

(1)カウンターパート：経済省鉱山庁、YMAD（鉱山公社）

(2)対象鉱種：金、銀。

(3)調査手法：ボーリング調査（906m）、坑道調査（710m）、プレ F/S。

(4)調査結果：上記調査及びアルトデラブレング地域の調査結果と併せ、埋蔵鉱量 194 万トン（金 5.99g/t、銀 116.78g/t、カットオフ品位 Au：3.0g/t）を確保し、プレ F/S により鉱山開発計画書を作成した。ファラジョンネグロ鉱山はこれにより 10 年以上の延命を図ることができ、現在もエスペランサ脈の採掘を主にして操業を続けている。

#### 6. 西部地域（資源開発調査：1992-1994 年）

(1)カウンターパート：経済省鉱山庁

(2)対象鉱種：金、銀、銅、鉛、亜鉛

(3)調査手法：地質調査（1,500km<sup>2</sup>）、物理探査（CSAMT 法）、ボーリング調査（16 孔 3,169m）

(4)調査結果：ラリオハ州 Las Callana 地区で高品位の金脈露頭（幅 80cm、金 43.69g/t）を発見、引続くボーリング調査で下部の含金石英脈（幅 0.42m、金 24.30g/t、幅 1.00m、金 9.11g/t など）を確認した。これらの調査結果をベースに、1998 年から現在も日本企業とカナダ企業とが共同で、探査を進めている。

#### 7. 東部アンデス地域（広域調査：1997-1998 年）

(1)カウンターパート：経済・公共事業省鉱業庁

(2)対象鉱種：鉱物資源全般

(3)調査手法：既存データ解析、衛星画像解析、グランドトランス

(4)調査結果：調査対象地域はラリオハ州南部、サンファン州及びメンドーサ州北部のアンデス地帯面積約 77,000Km<sup>2</sup>。LANDSAT 及び J-ERS-I の画像解析により、地質・地質構造の解明及び変質帯の抽出を行い、グランドトランスにより、ラリオハ州で 2 地区、サンファン州で 5 地区、メンドーサ州で 2 地区、計 9 地区の有望地区を抽出した。これらの調査データは鉱業庁・地質鉱物調査所

(SEGEMAR)、民間企業、州政府等に活用されている。

## 8. 南部アンデス地域 (広域調査：1999-2000 年)

- (1)カウンターパート：経済省エネルギー・鉱業庁、地質鉱物調査所
- (2)対象鉱種：鉱物資源全般
- (3)調査手法：既存データ解析、衛星画像解析、地化学探査 (分析/解析)、グラ  
ンドトランス
- (4)調査結果：調査対象地域はメンドーサ州南端、ネウケン州、リオネグロ州及び  
チュブット州のアンデス地帯、面積約 162,000Km<sup>2</sup> である。既存文献、LANDSAT  
-TM 画像の解析により、地質・地質構造の解明及び変質帯の抽出を行い、グラ  
ンドトランスにより、ネウケン州で Varvaraco、Cerro Mayal の 2 地区、チュブ  
ット州で Epuyen、Cerro Gonzalo、Cerro Colorada、Cerro Blanco の 4 地区、計 6  
地区の有望地区を抽出した。また、既存の河床堆積物の化学分析 (約 9000 試  
料) 及び解析の結果、メンドーサ州南西端からネウケン州北西端の Alto del Rio  
Barrancas 地区が有望であると判断された。

## 5-2. 開発調査 (フィージビリティ調査)

### 1. Hiparsa 社再活性化フィージビリティ調査 (1998 年)

- (1) カウンターパート：経済・公共事業省商工鉱業庁 (現：経済省エネルギー・鉱  
業庁)、リオネグロ州 Hiparsa 社。
- (2) 調査の目的：休業中の Hiparsa 社 (鉄鉱山及びペレット工場) 活性化のための  
F/S。
- (3) 調査手法：
  - 1) ペレット及び HBI (Hot Bricked Iron-熱間固形鉄) の市場調査。
  - 2) 過去及び現在の Hiparsa 社のレビュー。
  - 3) Hiparsa 社に適応し得る技術の調査。
    - ・選鉱テストによる鉄鉱石中のリン分低減可能性の調査。
    - ・選鉱場設備改善調査。
    - ・ポットグレートテストの実施とペレット工場改善方法の調査。
    - ・効率的鉄鉱石採掘方法の調査。
  - 4) Hiparsa 社再活性化のための最適シナリオの選定。
  - 5) 経済分析及び再活性化計画の策定。
- (4) 調査結果：鉄鉱山、選鉱場及びペレットプラントの改善並びに HBI プラント  
の新設のため初期投資額 2 億 1,970 万ドルに対する経済分析の結果、FIRR は  
7.4%、EIRR は 16.1%を得た。アルゼンティン政府及び Hiparsa 社はこの結果  
をベースに F/S の見直しを行い、国際入札にかける準備を進めている。



### 5-3. プロジェクトタイプ技術協力

#### 1. 鉱山公害防止対策研究センター

##### (1) 実施機関

- 1) 所轄官庁：(中央政府) 経済省エネルギー・鉱業庁  
(サンファン州政府) 生産・インフラ・環境省鉱山局
- 2) 実施機関：鉱山公害防止対策研究センター (CIPCAMI-Centro de Investigación para la Prevención de la Contaminación Ambiental Minero Industrial)

##### (2) 運営体制

- 1) 総括責任者：経済省エネルギー・鉱業庁次官補
  - 2) 総括責任者代理：サンファン州鉱業担当次官
- (3) 協力期間：1998年5月1日から4年間
- (4) センター所在地：サンファン市
- (5) 技術移転分野
- 1) 対象分野：水質汚染防止、鉱山公害防止行政
  - 2) 技術移転項目：水質分析用試料採取法、水質測定／分析技術、鉱石分析技術、鉱山／選工場廃水処理技術、環境配慮型選鉱／製錬法、鉱山公害防止行政
- (6) 日本側の協力
- 1) 長期専門家の派遣：5名 (チーフアドバイザー、業務調整員、廃水処理技術、選鉱／製錬技術、化学分析技術)
  - 2) 短期専門家の派遣：(ガスクロマトグラフ、赤外分光光度計、液体クロマトグラフ、鉱山公害防止技術、鉱山公害防止行政、その他)
  - 3) 研修員の受入：年間2名程度。
  - 4) 機材供与：水質及び鉱石の分析・測定機材、鉱山・選鉱場廃水処理機材。

##### (7) アルゼンティン側の役割

- 1) 研究所建屋の改修
- 2) カウンターパートの配置
- 3) ローカルコストの負担

#### 2. 先進的地質リモートセンシング

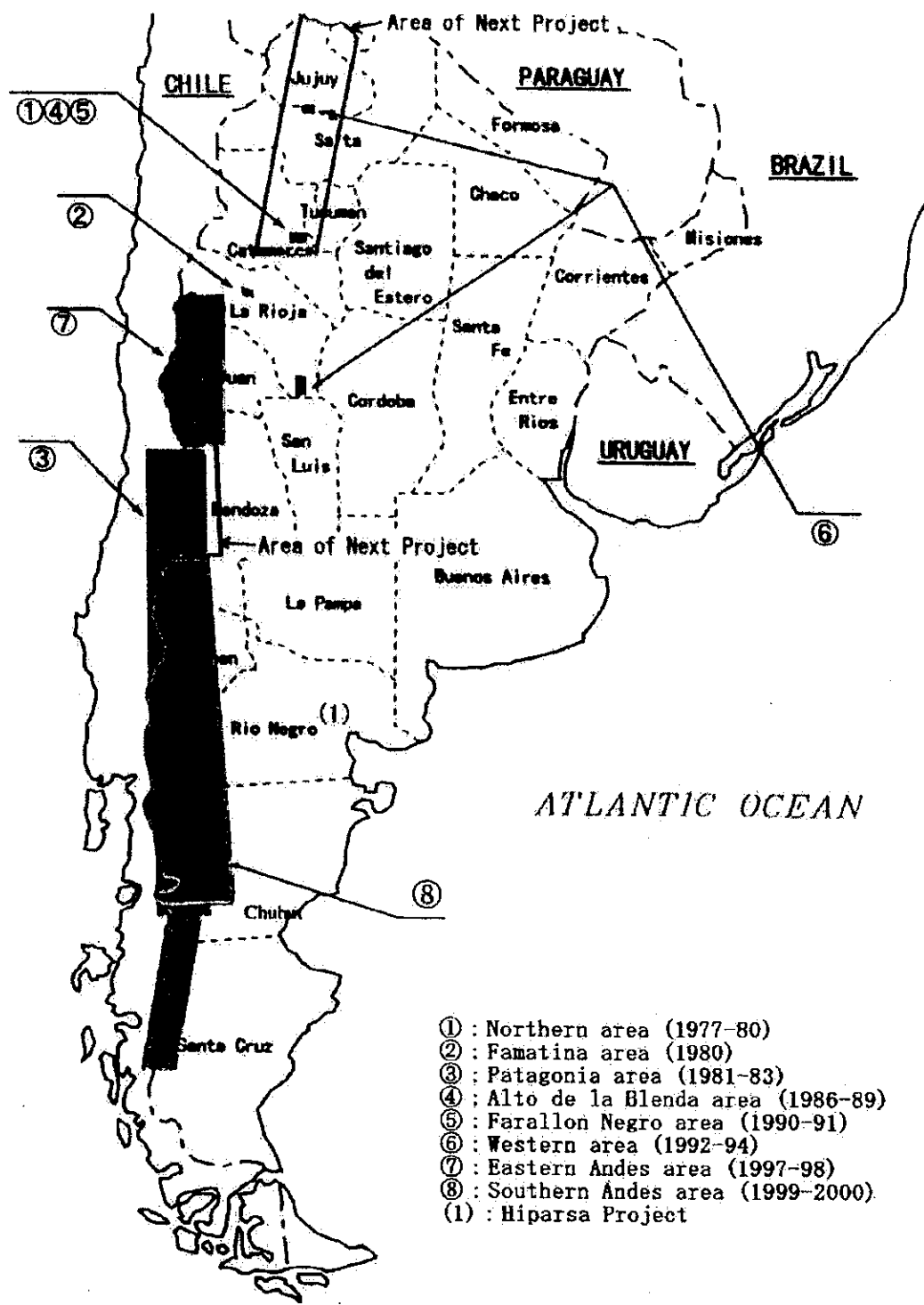
##### (1) 実施機関

- 1) 所轄官庁：(中央政府) 経済省エネルギー・鉱業庁
- 2) 実施機関：地質鉱物調査所 (SEGEMAR)

##### (2) 運営体制

- 1) 総括責任者：経済省エネルギー・鉱業庁地質鉱物資源調査所長

- 2) 総括責任者代理：地質鉱物資源調査所リモートセンシング・GIS 部長
- (3) 協力期間：2001年3月1日から4年間
- (4) プロジェクト所在地：ブエノスアイレス市
- (5) 技術移転分野
  - 1) 衛星データの取り扱い及びリモートセンシングの基本理念。
  - 2) デジタル画像処理及びASTERデータによる鉱物・岩質テーマ別マッピング。
  - 3) ASTERデータの地質マッピング及び鉱物資源探査への応用。
  - 4) PLASARデータによるマイクロ波解析。
  - 5) ASTER、PLASAR環境解析の紹介。
  - 6) データによるハザード解析の紹介。
  - 7) ハイパースペクトルデータ解析の紹介。
- (6) 日本側の協力
  - 1) 長期専門家の派遣：4名（チーフアドバイザー、業務調整、デジタル画像解析、地質リモートセンシング）
  - 2) 短期専門家の派遣：（PLASARデータ解析、環境解析、ハザード解析、ハイパースペクトルデータ解析、ソフトウェアインストール）
  - 3) 研修員の受入：年間2名程度。
  - 4) 機材供与：データ処理システム（ハードウェア、ソフトウェア）、現地検証用機材（スペクトロメータ、ラジオメータ、GPS）、ASTERデータ。
- (7) アルゼンティン側の役割
  - 1) カウンターパートの配置
  - 2) ローカルコストの負担



Technical Cooperation Between Japan and Argentina In the field of mineral resources.

Fig. 1 Location map of the past, present and future projects in Argentina

## 第6章 一般概況

### 6-1. 基本データ

- ◎面積： 2,766,889km<sup>2</sup> (日本の約 7.5 倍)
- ◎人口： 34,260 千人 (1995)
- ◎首都： ブエノス・アイレス市 (2,961 千人、1995)
- ◎住民： 白人 (主としてスペイン人、イタリア人) 97%、原住民 (インディオ、メスティソ) 3%
- ◎宗教： カトリック (国教) 90%
- ◎政体： 共和制 (1 連邦首都区、23 州)
- ◎言語： スペイン語 (公用語)
- ◎通貨： ペソ (1 ドル = 1 ペソ)
- ◎元首： フェルナンド デ・ラ・ルア大統領 (1999 年 12 月就任、任期は 4 年)。
- ◎立法府： 二院制

☆上院 (72 議席、任期 6 年。一つの選挙区より第 1 党から 2 名、第 2 党から 1 名、合計 3 名が選出される。2 年毎に 1/3 改選。)

☆下院 (257 議席、任期 4 年。2 年毎に 1/2 改選。比例代表制。)

野党同盟党：	124 議席
ペロン党：	102 議席
共和国行動党：	12 議席
その他：	19 議席

- ◎気候： アルゼンティンは南北に長く広がっているため、気候も亜熱帯 (北部)、温帯 (中部)、亜寒帯 (南部) にまたがっている。

ブエノスアイレスをはじめとする中部のパンパ地帯は温暖で、日本の気候と大差ない。しかし、南半球に属しているため、四季は日本と反対である。

- ◎位置： 南米大陸南部にあり、西は大陸南端に至るアンデス山脈がチリとの国境になっている。北はボリビア、北東はパラグアイ、東はブラジル、ウルグアイと接し、南東は大西洋に面している。

- ◎文化： 国民の大部分が移民の子孫であり、南米において最もヨーロッパ的な国である。特に中部、南部ではあらゆる意味でヨーロッパの影響が強く見られるが、北部に行くにつれボリビア系の土着民の影響が強くなる。

### 6-2. 歴史上の特記事項

#### 1. スペイン人の進出

現在のアルゼンティンへのスペイン人の進出は、16 世紀の初頭により行なわれてきた。

その大きな流れは、東部海岸地帯よりラ・プラタ (La Plata) 河、パラナ (Paraná) 河を遡って行なわれたものと、北西部のペルー、ボリビアを経由して行なわれたものと、西部のチリからアンデス山脈を越えて行なわれたものとの三つに大別され、土着のインディオを征服しつつ、植民が進められたものである。

## 2. 初期の渡来者

1516年、フアン・ディーアス・デ・ソリス (Juan Díaz de Solís) の率いる探検隊が初めてラ・プラタ (La Plata) 河の川口に到達。

その後セバスティアン・カボット (Sebastián Gaboto-1526年)、ペードロ・デ・メンドーサ (Pedro de Mendoza-1536年) 等の探検隊が相次いで来亜、パラナ (Paraná) 河、パラグアイ (Paraguay) 河沿岸を探検、植民を行なった。

## 3. 植民地の建設

当時建設された主な植民地としては、次のようなものがある。

- アスンシオン (Asunción-1536年)、サンタ・フェ (Santa Fe-1573年)、ブエノス・アイレス (Buenos Aires-1580年)、コリエンテス (Corrientes-1588年)
- サンティアゴ・デル・エステロ (Santiago del Estero-1553年)、トゥクマン (Tucumán-1565年)、コルドバ (Córdoba-1573年)、サルタ (Salta-1582年)、フуй (Jujuy-1593年)
- メンドーサ (Mendoza-1561年)、サンファン (San Juan-1562年)、サン・ルイス (San Luis-1596年)

## 4. ラ・プラタ副王の任命

アルゼンティンにおける植民の進展、人口の増加、社会経済的発展、ヨーロッパとの交流の増大、またラ・プラタ河流域へのポルトガル人進出の諸事情に対処する必要上、1776年、スペイン王国は、ブエノスアイレスに本拠をおく、リオ・デ・ラ・プラタ副王を任命した。これにより、当時のアルゼンティン地方は、ペルーの副王領から独立するに至ったものである。

また、1778年、ブエノス・アイレス港が開港され、従来ペルー経由で行なわれていたスペインとの交易が直接行なわれることとなった。

## 5. スペインからの独立

リオ・デ・ラ・プラタ副王領は、ブエノス・アイレスを中心として、政治的、経済的な発展を遂げたが、一方においては、スペイン本国の貿易独占に対する不満、スペイン本国人とクリオージョ (Criollo-現地生れのスペイン人子孫) とのあつれき等々あり、また他方においては、アメリカ合衆国の独立、フランス大革命の影響もあって、次第に

スペインの統治から離脱しようとする空気が醸成されるに至った。

1808年に行われたナポレオン(Napoleon)のスペイン侵入と、その後のスペイン本国の政治的混乱をきっかけとして、1810年5月25日、ブエノス・アイレス市会は副王を退位させ、所謂「5月革命」が成立した。

以後、各地で叛旗をひるがえす旧勢力との解放戦が続けられたが(有名な建国の英雄サン・マルティン将軍—José de San Martínが活躍したのもこの頃)、逐次平定され、1816年7月9日、トゥクマン市に参集した各地の代表が、内外に向かって独立を宣言し、現在のアルゼンティン国が誕生したものである。

## 6. 独立後の推移

独立後のアルゼンティンは、決して平坦な発展の過程を辿った訳ではない。従来アルゼンティンの政治、経済を牛耳って来たブエノス・アイレス州(Unitaria—統一派)と、地方の各州(Federal—連邦派)との間では主導権争いによる対立・抗争が続いていたが、最終的には、ブエノス・アイレス州を中心とする統一派の勝利に帰し、その後1880年ブエノス・アイレス市に連邦首都が設定されるにおよび(ブエノス・アイレス州の州都は1882年ラ・プラタ市に移転)、名実ともに統一されたアルゼンティン共和国が発足するに至った。(1816年の独立以来、実に60年の歳月を要している)この間の国内事情については、次の点が特記される。

### ○ローサス(Rosas)時代(1829年—1832年、1835年—1852年)

ローサス将軍は、ブエノス・アイレス州知事として全国統一を企図し、徹底した強権政治を行うとともに、地方にばっこする土着民の討伐を行い版図の拡大に努めた。その結果、大土地所有制度が進展し、これを基盤として牧畜業が興った。

しかし、ローサスは、1852年、ウルキッサ(Urquiza)将軍との武力衝突に敗れた結果、英国へ亡命、略々20年にわたって国内を震撼させた強権政治に終止符が打たれ、これを契機としてアルゼンティンは政治的にも経済的にも大きな発展の方向を辿ることとなった。

### ○憲法制度(1853年)

ウルキッサ将軍の主導により憲法会議が開催され、自由と平等を基本理念とする現行憲法が制定された(1860年に一部改正)。

### ○アルゼンティンの興隆期(1854年—1880年)

憲法制定後、ウルキッサ将軍が憲法に基づく初代大統領に選出され(1854/60)、以後ミットレ(Mitre—1862/68)、サルミエント(Sarmiento—1868/74)、アベジャネーダ(Avellaneda—1874/80)等が大統領に就任、何れも基本的には立憲政治と農牧立国、ヨーロッパ移民と資本の導入に努めた結果、この時期より今世紀初頭にかけてアルゼンテ

インは飛躍的な発展を遂げるに至った。

因に、前世紀後半より今世紀初頭にかけては（第一次世界大戦前）、3,500 千人に上る移民が導入された由で、この時期には（1869 年より 1914 年に至る 45 年間）、人口も 1,737 千人から 7,885 千人と驚く程の増加振りを示している（約 4.5 倍）。

移民導入と人口増加の結果、パンパ・ウメダ地域（Pampa húmeda: 湿潤パンパ地域—アルゼンティンの農牧業の中心地）の植民と開発が急速に進み、農牧業の発展に大きく貢献した外、ブエノス・アイレス、ロサリオ、サンタ・フェ、コルドバ、サルタ、トゥクマン等の諸都市においても人口が急速に増大し、商工業の発展を促進した。

農牧業の発展と都市の興隆は、鉄道の発展を促す一方（1913 年における鉄道の延長 33,500 キロ）、貿易を促進し（輸出—農牧産品、輸入—消費財、建設・工業資材）、その後のアルゼンティンの発展に大きな役割を果たすこととなった。

一方、急速に発展しつつあった上記諸都市では、商工業、労働者を中心とする新興階級（市民層）が形成され、前世紀末には大土地所有者に対抗する程の政治的勢力を有するに至った。これが、その後のアルゼンティン社会における中産階級（Clase Media—総人口の 40%—50%）を形成する基礎となったものである。

### 6-3. 近年の政情

#### 1. 第一次ペロン政権

第二次世界大戦後、1946 年 2 月、大統領に就任したペロン（Perón）は、ナショナリズムを標榜しつつ政治的には労働者優遇政策をとり、労働者階級を基盤として大きな支持勢力を獲得するとともに、経済的には、欧米先進国による植民地政策の打破、民族資金による自給自足体制の確立を目指して、強力に工業化を推進した。

しかし、急速な工業化政策と労働者優遇化政策とは、国家の財政を窮乏におとし入れ、インフレの昂進と農業生産の停滞を招いた。一方、ペロンの国家社会主義的な行き方は、次第に全体主義的・独裁的傾向を強め、民心の離反と教会との対立を招いた。1954 年に成立した離婚法は、教会との対立を決定的なものとし、遂にはローマ法王より破門されるに至った。かくしてペロンは、一層窮地に追込まれ、1955 年民衆の蜂起と軍部の革命により、9 年間にわたったペロン政権は崩壊するに至った。

#### 2. ペロン失脚後の推移

1955 年、ペロン失脚後は、3 カ年にわたり軍政が敷かれ（第一次）、ペロン派の弾圧、ペロンの残した政治体制の解体が行われた。

次いで、フロンディッシ（Frondizi）、イリア（Illia）等を首班とする民政が 8 年間続いたが、この間も労働者階級を基盤とするペロン派の勢力は一向に衰えをみせず、政権の転変は常にペロン派の進出に左右されるほどであった。

一方、国内経済は悪化の一途を辿るばかりで、インフレの昂進、国際収支の悪化、労

働争議等の悪条件が重なったため、1966年、再度軍部による革命が行われ、オンガニア（Onganía）を首班とする軍事政権が成立した。

### 3. 第二次軍事政権

当初、軍部としては、国家再建のため、政治、経済、社会全般にわたる大改革を企図したが、何れもその目的が達せられないまま、政治、経済事情は益々悪化し、インフレの昂進と労働争議の頻発をみた。

このような状況下、国民の間には軍政に反対する空気が強くなり、遂には過激分子によるテロ行為が横行するに至った。

この頃より一層活発となったペロン派の政治的動きと相まって、7年間にわたり政権を担当して来た軍部もラヌーセ（Lanusse）大統領を最後として、総選挙に踏み切らざるを得なくなり、民政に復帰することとなった。

### 4. 第二次ペロン政権

1955年第一次ペロン政権の崩壊後、略々18年間に亘り軍政と民政が繰り返されたが（軍政-3年、民政-8年、軍政-7年）、予てよりの公約に基づき、1973年3月25日総選挙が行われた。この結果、ペロン派を中核とする自由正義派連合（Frente Justicialista De Liberación）に推されたカンボラ（Campora）が圧倒的勝利をおさめ、5月25日、カンボラを首班とするペロン派政権が誕生した。かくして、1966年の軍事革命以来、7年振り再び民政に復帰することとなった。

その後は、ペロンの帰国、剥奪されていた位階勲等の復活、カンボラの辞任、ペロン夫妻の正、副大統領立候補等々、ペロン政権実現に必要な一連の措置がとられた後、1973年9月23日、大統領選挙の結果、ペロンは62%という史上最高得票率を得て当選し、10月12日ペロン夫妻を正、副大統領とする第二次ペロン政権が成立した。

ペロンは、軍事政権末期より激しくなった物価の上昇とテロ対策を最重要政策としてかけ、その達成に努力したが、1973年末のオイルショックを契機として、次第に物価が上昇、またこれに伴って賃金の引上げが要求され、物価と賃金上昇の悪循環が始まった。また、治安の面についても、新政権成立後一向に好転する気配を示さず、ペロン派内部の主導権争いと相まって、国内各地のテロ、ゲリラ活動は次第にエスカレートするに至った。

かくて、国内における政治、経済、治安状態が悪化の方向を辿りつつあったところ、かねてより勝れなかったペロンの健康が急に悪化し、1974年7月1日遂に逝去、このためペロン夫人が即日大統領に就任した。

しかし、ペロン夫人には事態を收拾する能力なく、政治・経済の混乱と治安の悪化は、国民生活を一層苦境と不安に追い込むこととなった。特に、1976年に入って以来一層ひどくなった政治的混乱、経済の悪化、官政界の汚職、腐敗、道義の低下等に加うるに、



テロ、ゲリラ活動が益々激化し、あたかも無政府状態を呈するに至った。このため、国民の間にはアルゼンティンの現状に希望を失い、何等かの形で局面の打開を希求する空気がみなぎってきた。

## 5. 第三次軍事政権

このような状況下、事態は日増しに緊迫の度を加え、最早軍部の介入なくしては局面打開の方策なしと噂されていた折から、1976年3月24日未明、今度は軍部評議会 (Junta Militar) が政権を担当する旨の布告が発せられ、平穏裡に軍事革命が行われた。

引き続き3月29日、ビデーラ (Videla) 陸軍長官を首班とする軍事政権が成立したが、同政権は、政治、経済、治安面とともに極度に混乱した国内秩序を回復するものとして、またペロン政権末期の窒息しそうな混乱状態から脱却する唯一の方策として、国民は全面的にこれを是認、平静に受け止めた。

ビデーラ将軍は、大統領に就任以来、当初の革命綱領に従い、国家再建プロセス達成のために尽くした。その結果、かつてはせん烈を極めたテロ、ゲリラ活動も終息、治安の回復に大きな役割を果たした外、経済面においても自由を基調とした再建計画が打出され、アルゼンティン経済の体質改善に大きな成果を上げたように見受けられた。しかし、財政の再建とインフレ対策は十分に奏効せず、一方インフレ対策の一環としてとられたペソ貨の過大な評価は輸出の減退と生産活動の停滞を招き、その後のアルゼンティン経済に大きな禍根を残すこととなった。

ビデーラに引き続き、ビオーラ (Viola) 及びガルティエリ (Galtieri) 将軍が政権の座についた。ガルティエリはイギリスとの間にいわゆるマルビーナス (Malvinas) 戦争を起こし (1982年4月2日)、これに敗退した結果 (同年6月14日)、アルゼンティンを対内的にも、対外的にも一挙に苦境に追い込むこととなった。

マルビーナス戦争の敗退に伴うガルティエリの失脚後は、ニコライデス (Nicolaidis)、ビニョーネ (Bignone) 将軍が大統領に就任した。しかし、同戦争の敗退を契機として、軍事政権の権威は地に墜ち、その戦争処理に加え、インフレ、対外債務、破壊活動の抑圧に係る行方不明者一人権問題等々、政治・経済・社会的に困難な問題の山積みする中であって、1983年10月30日、民政に移行するための総選挙が行われた。

## 6. アルフォンシン政権

同上選挙の結果は、大方の予想に反し、急進党 (Unión Cívica Radical) のアルフォンシン (Alfonsín) 大統領候補が、次の通り公正党 (Partido Justicialista) の候補を大きく引離して当選、12月10日、大統領に就任した。

急進党	52.8%
公正党	43.2%

国民の衆望を担って登場したアルフォンシン大統領は、就任以来、選挙時の公約に基

づき各種の施策を実施に移した外、数次に亘る外国訪問により友好国との修交に努力する等新政権として体制固めに積極的な姿勢を示してきた。しかし、7年8か月に亘る軍事政権より引き継いだアルゼンティンは、対内的にも対外的にも困難な問題が累積していたため、その解決には容易ならぬものがあつた。

アルフォンシンの施政中、内政、外交面においては可成りの成果を挙げたものがあつたが（注、参照）、インフレの再燃と経済活動の停滞、陸軍部隊の反乱（1987年4月、1988年1月及び12月）、ゲリラ活動（1989年1月及び2月）、労働攻勢等、諸情勢の悪化する中であつて1989年5月、大統領選挙が行われた。

（注）内政：3軍の長官制を廃する等、軍事機構の縮小、軍事政権時代に行われた破壊活動抑圧に係る人権蹂躪問題の究明（人権裁判）等。

外交：ラテンアメリカ諸国をはじめ、ヨーロッパ、第三世界諸国との関係の強化、ビーグル（Beagle）海峡に係るチリとの国境紛争の解決。

マルビーナス問題に関し、アルゼンティンの立場を支援する国連決議の取得。ブラジル、ウルグアイとの経済、地域統合の取り決め等。

その結果は次の通りで、与党の急進党が大敗、野党の公正党（ペロン派）より立候補したメネム（ラリオハ州知事）が大統領に選出された。

メネム（Carlos Saúl Menem - La Rioja 州知事）	公正党	47.4%
アンヘロス（Eduardo Angeloz - Córdoba 州知事）	急進党	32.5%
アルソガライ（Alvaro Alsogaray - 中央民主同盟党主）	-	6.6%

一方、大統領選挙に先立ち、1989年3月、経済状態の悪化に伴い、スルイール（Sourroille）経済相を首班とする経済グループが退陣、これを契機としてアルゼンティンの経済は急速に悪化し、アルフォンシン政権の命取りになるまでに至つた。

かかる状況下、2回に亘り経済相の更迭が行われたが、事態は收拾されず、悪化の一途を辿りつつあつたところ、遂にアルフォンシンは5カ月の任期を残したまま、政権放棄を余儀なくされ、7月8日、新たに選出されたメネムが大統領に就任した。

## 7. メネム政権

アルフォンシンより政権を引継いだアルゼンティンにおいては、混乱を極めた経済再建、公共部門の合理化、対軍部政策、労働者対策等々困難な問題が山積みしていたが、メネム大統領は就任後直ちに従来のポピュリズム的政策を転換して、市場メカニズム主導型の自由開放政策への移行を図り、大胆な民営化、公共部門の整理、税制改革、地方分権化等による財政再建に取り組み、更にカバロ経済祖（当時）の下で、1991年4月兌換法（固定為替制度）を導入した結果、急速にインフレが低下して経済の安定化が図られた。

これとともに、貿易の自由化、関税率の引下げ、外資規制の全廃といった自由開放政策に加えて、規制緩和、金融改革等の広範な構造改革を実施した結果、外国からの活発

な資本流入にも支えられて、マイナス成長となった1980年代から一転して、1991年から1994年まで平均8.9%の高い経済成長を実現した。

1991年後半に実施された知事選挙、1991年及び1993年に行われた下院議員等の改選においては、実施中の経済安定化政策の成果により、与党ペロン党が予想以上の躍進を示した。1995年5月の大統領選挙における投票率は、ペロン党49.8%、急進党17%、フレパソ党29.4%、その他3.8%となっている。1995年7月に発足した第2次メネム政権においては、18.6%にのぼる失業問題がクローズアップされ、政府の支持率は低迷。

先進諸国を中心とする国際経済体制の中で経済の再建を図ることを外交の目標としており、そのために米国、欧州諸国、日本との関係強化にプライオリティを置いている。特に米国との協調を最重要視している。また、平和維持活動にも積極的に参加している。

近隣諸国との友好関係を維持しつつ地域統合の推進（南米共同市場「メルコスール」が1991年3月26日付アスンシオン条約に基づき、1995年1月より発足）に重点をおいている。

1996年の外交目標として、イギリスの漁業、石油に関する協定の具体化、OECDへの加盟、米州自由貿易地帯（FTAA）構想の推進、環太平洋地域との経済、貿易関係の進展などを挙げている。

アジア諸国との関係は軽薄であったが、最近では、経済面を中心にアジア太平洋地域への関心が増大している。メネム大統領は1995年10月に中国と韓国、1996年8月にマレーシアとインドネシア、1997年2月にベトナム、タイ、シンガポール、1998年12月に日本を訪問している。

## 8. デ・ラ・ルア政権

1999年10月24日、大統領選挙が行なわれ、事前の世論調査で予想されたとおり、野党同盟のデ・ラ・ルア候補が第一位となり、得票率も45%を超えていたため、決選投票に持ち込まれることなく、次期大統領として選出された。ペロン党ドゥアルデ候補は37.9%、共和国行動党のカパロ候補は10.2%の投票率を獲得し、それぞれ、二位、三位となった。

同日、18選挙区にて国会下院議員、6州にて州知事、州議会議員、市長、市議会議員選挙が実施され、その主な結果は次の通りである。国会下院議員選挙（257議席のうち、130議席を更新）の結果、下院の構成は、野党同盟124議席（18議席増）、ペロン党102議席（20議席減）、共和国行動党12議席（9議席増）、その他19議席となった。州知事選挙では、ブエノスアイレス州、ラパンパ州、フアイ州にてペロン党が勝ち、チュブット州、メンドサ州、エントレリオス州にて野党同盟が勝った。これまで行なわれた州知事選挙の結果は、ペロン党14州、野党同盟7州、地方党1州となった。

1999年12月10日、大統領就任式が行なわれ、デ・ラ・ルア政権が発足した。また、同日、下院議員半数改選に基づく議席変更が行なわれたとともに、新内閣法が議会で承認

され、新内閣も宣誓を行なった。

新内閣法は、行政組織に関し、従来の厚生・社会事業省を厚生省と社会開発・環境省に分割し、経済公共事業省から公共事業に関する業務を分割独立させて公共事業省を新設し、これまでの8省を10省とした。また、大統領府に属する庁に関して、これまで17あった庁とこれらに属する30以上の課を大幅に削減した。

デ・ラ・ルア大統領は、12月13日から2月29日まで臨時国会を召集することを決定した。それにより、租税収入の連邦・州間配分の制度に関する与党同盟、ペロン党間の合意を受け、2000年度予算案が12月28日、税制改革が12月29日、国会を通過した。

#### 6-4. 経済概況

アルゼンティンは、278万平方キロメートルの広大な国土を有している。その52%は牧草地帯、10%は耕作地、22%が森林地帯で、地味は全般的に肥沃である。中でもパンパ平野は、60万平方キロメートルの広さを持ち、世界で最も恵まれた農牧地帯の一つである。20世紀初頭には、このような自然条件に加え、欧州からの移民による労働力の増加、英国資本を中心とする外国からの資本流入に支えられて、アルゼンティンはヨーロッパの穀倉として位置付けられ、穀物及び牛肉輸出拡大を通じて資本蓄積が促進され、世界でも有数の富裕国となった。

#### 6-5. 日本との関係

1898年に日亜外交関係が樹立されて以降、伝統的に友好協力関係を維持しているが、特に近年においては、要人往来、高級事務レベル協議の実施等両国関係は活発化している。最近では、1993年と1998年メネム大統領、1996年ディ・テラ外相の訪日、1994年河野外務大臣兼副総理、1996年小川政務次官、1997年天皇皇后両陛下、1998年秋篠宮同妃両殿下が亜国を訪問した。また、1998年には日亜修好100周年を迎え、これに伴う記念式典、文化祭等が両国にて行われた。



LIB